



## 展覧会概要

徳川美術館が所蔵する尾張徳川家伝来の日欧貿易関係品は、御三家筆頭の名にふさわしい質の高さと希少性で国内外に広く知られているコレクションです。さらに、名古屋市蓬左文庫にも、江戸時代を通じて日本へもたらされたヨーロッパ由来の人文科学の知識や最新の世界情勢に関する尾張徳川家旧蔵の漢・和・洋籍が残されています。

本展は、これまでまとまったかたちで紹介されることのなかったこれらの日欧貿易関係コレクション、書籍、古地図類などを一堂にご紹介します。殿さまたちが触れた当時最先端の「異国」の美や、学問・情報へのまなざしを追体験していただければ幸いです。

## 展覧会基本情報

- ◆展覧会名 秋季特別展 殿さまが好んだヨーロッパー異国へのまなざし
- ◆会場 名古屋市蓬左文庫展示室・徳川美術館本館展示室
- ◆会期 2020年9月20日（日）～11月3日（火・祝）※前期9/20-10/11 後期10/13-11/3
- ◆開館時間 午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
- ◆休館日 月曜日（但し、9月21日（月・祝）22日（火・祝）は開館、翌23日（水）は休館）
- ◆観覧料 一般1,400円 高・大生700円 小・中生500円  
※20名様以上の団体は一般1,200円 高大生600円 小中生400円  
※毎週土曜日は高校生以下無料
- ◆主催 徳川美術館 名古屋市蓬左文庫 中日新聞社 日本経済新聞社
- ◆協力 名古屋市交通局
- ◆出展作品数 169件 ※会期中一部展示替を行います。

## プレス内覧会

2020年9月19日（土）午後1時30分～2時30分

会場：徳川美術館 講堂

内容：展覧会担当学芸員による概要説明の後、展示室にて自由取材

# I ヨーロッパ世界との出会い

## — 地図と地理学

大地が球状であるという認識のもと、国の面積や距離を平面図へ落とし込んだヨーロッパ製の世界地図は、十九世紀には今日の世界地図と遜色ない精度となりました。日本人は、ヨーロッパの測量法・製図法を中国経由・ヨーロッパ経由で学び、さまざまな地図を製作しました。

尾張徳川家には、市井で流通していた地図から、当時は入手困難であった地図まで、各種の地図が伝わっています。

またコラムとして、ヨーロッパでの様々な狩猟の場面を、現実・空想取り交ぜてあらわした銅版画も展示します。

阿蘭陀人殺生図  
(原題「Venationes Ferarum, Avium, Piscium」)  
アントワープ(ベルギー)で十六世紀に製作された全104枚の狩猟図シリーズ。国内では尾張徳川家にしか伝来が確認されていない貴重な銅版画です。



新刊輿地全図(部分) / 日本



世界全図 / オランダ・アムステルダム

1857年にオランダで刊行された航海用世界地図「世界全図」を原図として、幕府の役人であった佐藤政養が翻訳・加筆し、発行したのが「新刊輿地全図」。標題の中央に「日の丸」の旗が描かれ、さらに日本が赤く塗られており、今日の地図との共通点を見出すことができます。

# II ヨーロッパ諸国による植民地化政策への危惧

## — 地誌・最新事情・軍事

十八世紀中期以降、ヨーロッパ人によるアジアの植民地化政策が鮮明になるにつれ、ヨーロッパの地誌・最新情報・軍事に関する知識・情報は重要性を帯びてきました。特にアヘン戦争(一八四〇〜四二)以降、中国や日本で危機感をもって盛んに情報が集められ、出版されました。

尾張徳川家も大きな関心をもって世界情勢を注視していたことがうかがえます。



上: 回転式六連発ピストル / フランス  
外国奉行・川路聖謨が所用し、1868年に自決した際に用いられたピストルです。  
下: 大砲(模型) / 日本

# III ヨーロッパの新しい知識

江戸時代に輸入されたヨーロッパからの書籍「蘭書」はおよそ一万冊にものぼります。ヨーロッパの学問や技術を学ぶ「蘭学」の中でもとりわけ医学・天文学など実用性の高い学問は多くの人々に学ばれました。尾張徳川家では、イエズス会宣教師たちが中国人を介して述べた十七世紀の漢籍から、十九世紀の蘭書を翻訳した和書まで幅広く網羅・蒐集しています。最新のヨーロッパからの知識にも関心を払い、かつ意識的に吸収しようとしていたことがわかります。

# IV ヨーロッパ人がもたらした染織品

ヨーロッパ人がもたらした染織品は、オランダやイギリス製の各種毛織物を主としたヨーロッパ製品と、インド製の木綿・絹織物、イラン製の金糸入絹織物に加え、中国製の絹製品なども含むアジア製品の二種類があります。これはヨーロッパ人が、東南アジアの中継港で、中国製品も日本向け商品として積み込んでいたためです。

尾張徳川家に伝来する染織品はヨーロッパからアジアの製品まで様々な種類があります。中には製品加工のために切り取られた布地もあり、仕立てた製品も残っています。



一番更紗 / インド  
江戸時代中期頃までに舶載されたいわゆる「古渡り更紗」。日本では衣裳や茶道具などに好んで使用され、本品にも細かく切り取られたあとがあります。尾張徳川家では「一番更紗」と呼んでいました。(9/20~10/11 公開)

茶地花唐草文蒙流 / イランまたはインド

もとは腰に巻き付ける帯。織留に房の付いた状態で、織りの全体が残っているのは大変珍しい例です。(10/13~11/3 公開)

赤羅紗地桐に鳳凰文火事頭巾 / 日本

ヨーロッパの毛織物である羅紗の生地を文様通りに切り抜き、図様をはめ込む「切嵌」の手法を用いています。派手好みとされる尾張徳川家7代の宗春らしい頭巾。(10/13~11/3 公開)



遠望鏡(天体望遠鏡) ギルバート社製 / イギリス

嘉永2年(1849)に徳川慶勝(尾張家14代)が家督を相続した祝いとして、福岡黒田家より贈られた品です。箱書にはオランダ商館長が所持していたと記されています。

## V ヨーロッパの装飾革

「金唐革」  
きんからかわ

オランダ東インド会社が日本向けに輸出した品物の中には、貿易の主力商品である生糸、織物、皮革類等とは別に受注品・献上品として持ち込んだ高価な品物がありました。日本で「金唐革」と呼ばれた、ヨーロッパ製の室内装飾用革はそのひとつです。金唐革は十七〜八世紀を中心に幕府高官への贈答品として運ばれた品で、長崎・大坂・京・江戸以外の地域には殆ど流通しない高価な希少品でした。

尾張徳川家には貴重な十七世紀の製品がまとまった数量で伝来しており、御三家筆頭である尾張徳川家の地位の高さをおのずと示しています。



## VI ヨーロッパ人の

好んだインド絨毯

ヨーロッパ人にとって西アジア・南アジア製の絨毯は、大変高価な輸入品であり、日本でも十六世紀以降に輸入されるようになりまし。

尾張徳川家には、世界に三例しか知られていない絨毯や、将軍家献上品として文献史料に残るような大型絨毯などが伝来しており、当時極めて珍しい製品をも入手することが可能であった特別な立場をあらわしています。

右：金唐革 極印手・アーカンサス文（部分） / オランダ  
上：金唐革鏡覆 ハンス・ルメール作 / オランダ  
金唐革は、ヨーロッパでは主に壁装材として用いられたが、日本では南蛮趣味のアクセサリとして、煙草入れや箱、小物などに使用されました。

左：西洋文字文染革 / 日本  
連合オランダ東インド会社の商標「VOC」があり、オランダ語を意識したかと思えるが、逆転や反転の文字も多く、アルファベットを装飾化して単なるエキゾチックな文様にしています。



## VII ヨーロッパ人と

輸入動物・動物素材

江戸時代、日本へ持ち込まれた動物には、ベトナムの象、ペルシアの馬、西アジアのラクダ、東南アジアやアフリカのインコやオウム等の鳥類が知られています。特に鳥類は将軍家はじめ大名家・富裕町人層に愛玩動物として好まれ、珍奇な見世物にもなりました。

また、日本で「鮫皮」と呼ぶエイの皮はヨーロッパ人がオランダ人が東南アジアやインドの漁場で採取し、長崎へ運びました。尾張徳川家には刀の柄に用いる鮫皮や、象牙・鼈甲などの輸入素材を用いた製品のみならず、珍しい輸入鳥類を描いた絵画も伝来しており、新しく目にする生き物への関心を垣間見ることができます。



風鳥（極楽鳥刺製） / ニューギニア



百鳥図 五卷のうち 仁の巻（部分）  
「黄頂小白鸚鵡（キバタン）」 / 日本

## VIII ヨーロッパの道具・うつわ

陶器・ガラス器・金属器

江戸時代、オランダ人が運んできた陶器は製作地に関係なく「阿蘭陀焼」と呼ばれて珍重されました。阿蘭陀焼には主にオランダ・デルフトで製作された鉛白釉藍彩・多彩陶器と、ドイツ・ラインラント地方で製作された塩釉炆器（陶器より硬度的あるやきもの）があり、珍品として持ち込まれました。尾張徳川家には、国内では大名家にしか伝来が確認されない大型のドイツ製炆器製品や、デルフト陶器を模した日本製のヨーロッパ風陶器をはじめとする、類例の少ないヨーロッパ関係の各種素材のうつわが伝来しています。



上：金七宝唐草文薬入 / 日本  
下：阿蘭陀焼印花人物文手付水指 / ドイツ

## † 欧州とアジアの興亡 — 近世の大大名家が残した「世界近代化」の歴史 †

尾張徳川家伝来の日欧貿易関係品には、手工芸品や前近代の小規模な工場製品と、機械製工業製品が混在しています。例えば、南インド製の輸出用手織絨毯は十七世紀にはポルトガル・イギリス・オランダによってヨーロッパへ運ばれ、豊かさの象徴として、敷物ではなくテーブル掛けなどの覆物として扱われる貴重品でした。しかし十八世紀の産業革命以降、ヨーロッパでは機械織・プリントによる文様付けの絨毯が登場します。鮮やかな合成染料を使用した機械織絨毯は大量に生産可能なために安価で、インドをはじめとするアジア諸国の高価で手間のかかる手工芸製品の市場を駆逐していき、工芸品製作地から単なる原料生産地へと失墜させたことで、ヨーロッパ世界の優位性が確立されたのです。

十八世紀以降、急速にアジア世界を植民地化しようとするヨーロッパ世界の動きと、機械製工業製品の登場とを重ねながら、尾張徳川家の各時代の品をみるのも面白さのひとつです。



八星メダイオン文絨毯 / インド



黄地唐花文形附羅紗毛氈 / ヨーロッパ

## 展覧会関連イベント

### ◆記念講演会「日蘭貿易の華—絵画から工芸まで」

講師：勝盛典子氏（香雪美術館 中之島香雪美術館 館長）  
日時：9月20日（日）午後1時30分～3時  
会場：徳川美術館 講堂  
定員：先着60名 ※入館者聴講自由（入館料別途要）

### ◆担当学芸員の見どころガイド

日時：9月21日（月・祝）午後1時～/30分程度  
会場：徳川美術館 講堂  
定員：先着60名 ※入館者参加自由（入館料別途要）

### ◆土曜講座「大名家の南蛮・阿蘭陀」

講師：長久智子（当館 学芸部マネージャー）  
日時：10月3日（土）午後1時30分～3時  
会場：徳川美術館 講堂  
定員：60名（年間通しの受講者優先、空席があれば当日受講可） 受講費：当日料金600円

### ◆秋期講座「工芸をめぐる近世ヨーロッパとアジアの交流」

日時：9月26日（土）・27日（日）/2日間  
各日1講目：午後1時30分～2時45分 2講目：午後3時～4時15分  
会場：徳川美術館 講堂  
定員：60名 ※各講座空席があれば当日受講可  
受講料：一般全講座5,400円（入館料込） 1講座800円（入館料別途：全講座受講者優先）

#### 【1日目】

##### ①祇園祭を飾るインド絨毯

—江戸時代の日本とイスラーム染織品—

講師：鎌田由美子氏  
（慶応義塾大学 経済学部 准教授）

##### ②中国・日本磁器からセーヴル、マイセンへ

講師：長久智子（当館 学芸部マネージャー）

#### 【2日目】

##### ①彦根藩主が蒐集した更紗に見る東西交流

講師：小山 弓弦葉氏  
（東京国立博物館 学芸研究部 調査研究課 工芸室長）

##### ②輸出漆器 東洋らしさを纏うもの

講師：永島明子氏  
（京都国立博物館 学芸部 教育室長）

## 視聴者・読者プレゼント提供

秋季特別展「殿さまが好んだヨーロッパ異国へのまなざし」を、ぜひ御社媒体にてご紹介ください。

画像を1点以上使用してご紹介いただいた場合、視聴者・読者プレゼントとして本展覧会の御招待チケット（非売品）を、1媒体5組10名様にご提供いたします。



## お問い合わせ 取材は随時お受けいたします



〒461-0023 名古屋市東区徳川町1017  
TEL：052-935-6262（10時～17時受付）  
052-935-8222（営業時間外受付）  
FAX：052-935-6261

[報道関係対応窓口] 徳川美術館 管理部

吉川 由紀 yuki@tokugawa.or.jp

竹内 大知 d.takeuchi@tokugawa.or.jp



秋季特別展 殿さまが好んだヨーロッパ—異国へのまなざし—

広報画像申請書 使用期間：～2020年11月3日



No.1  
金唐草 (部分)  
オランダ 17世紀  
徳川美術館蔵



No.2  
阿蘭陀人殺生図  
(原題「Venationes Ferarum, Avium, Piscium」)  
104枚、卷子装 4巻の内 (部分)  
ヤン・ファン・デル・スラート画  
フランドル・アントワープ 初版 16世紀



No.3  
新刊輿地全図 (部分) 二曲一双  
佐藤政養翻訳・製作  
江戸時代 文久元年 (1860)  
徳川美術館蔵



No.4  
八星メダイヨン文絨毯  
インド 18世紀  
徳川美術館蔵



No.5  
茶地花唐草文蒙流 もうる  
イランまたはインド 17世紀  
徳川美術館蔵  
(10月13日～11月3日公開)



No.6  
百鳥図 五巻のうち 仁の巻  
「黄頂小白鸚鵡 (キバタン) (部分)  
江戸時代 19世紀  
徳川美術館蔵



No.7  
阿蘭陀焼印花人物文手付水指  
ドイツ 17世紀  
徳川美術館蔵

使用媒体

放送日・発売日

プレゼント提供 希望する ・ 希望しない

貴社名

ご担当者様

データ送付先アドレス

ご連絡先電話番号

[ご利用にあたっての注意事項]

- ・画像のご利用は本展覧会の紹介用途のみに限ります。
- ・部分アップのトリミングは可能ですが、色変更等の加工はご遠慮ください。
- ・二次利用不可です。
- ・画像には最低限「タイトル」と「所蔵」のクレジットを明記してください。
- ・内容確認のための校正原稿をお送りください。
- ・ご掲載誌、DVD等を1部「徳川美術館 管理部 広報宛」でお送りください。



〒461-0023 名古屋市東区徳川町 1017

TEL: 052-935-6262 (10時～17時受付)

052-935-8222 (営業時間外受付)

FAX: 052-935-6261

担当: 吉川 yuki@tokugawa.or.jp

竹内 d.takeuchi@tokugawa.or.jp